



折高だより 令和6年度第6号

福岡県立折尾高等学校

令和6年8月27日
校長 浪崎 陽一

令和6年度2学期始業式式辞

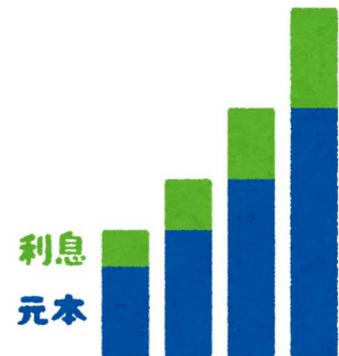
～ 努力の積み重ねの複利効果 ～

皆さん、おはようございます。本日からいよいよ2学期が始まります。1学期の終業式で皆さんに2つ宿題を出しました。覚えていますか。

ひとつは元気に本日の始業式に参加することでした。ここにいる皆さんこの宿題はできたことになります。もうひとつは夏季休業中に何かひとつでもいいから失敗を恐れずにチャレンジすることでした。これはいかがですか。夏季休業中、1年生は工場見学・大学見学、2年生はインターンシップ、3年生は進路対策講座等、様々な行事が行われました。8月21日には中学生体験入学が実施されました。皆さんは何か新たなチャレンジができたでしょうか。皆さんそれぞれが何かにチャレンジし、自分を高めることができた、と信じています。

さて、今日の話の本題に入る前置きとして金融用語である「複利」について話をしたいと思います。授業でも教わっている内容かと思いますが、簡単におさらいをしてみましょう。

簡単に言えば「複利」とは利子に利子がつくことです。例えば、元金、つまり元々あったお金が100万円あり、この100万円を金利2%で1年間預金したとすると、利子がついて1年後には102万円になります。翌年にこの利子で得た2万円を加え、102万円を再び金利2%でもう1年間預けると、104万円ではなく、104万400円となります。この400円は、利子である2万円についた利子ですね。このように、利子にもまた利子がつくことを、「複利」といいます。これを毎年続けていけば元金100万円が2倍になるのに何年かかると思いませんか。答えは約36年です。もし、金利が10%ならばわずか7年あまりで元金が倍になるのです。このように利益が利益を生み、雪だるま式に資産が増えていくことを「複利効果」と呼んでいます。



「複利」というのはお金の話ですけれども、これを私達の努力に置き換えてみたらどうでしょうか。よく努力の積み重ねが大事と言いますが、私は努力の積み重ねというのはまさに「複利効果」だと考えています。どういうことか説明します。

元々自分が持っている能力を「1」だとします。そして、プラス1%の努力をすれば翌日には、「1」が「1.01」になります。毎日プラス1%の努力を1年間継続すれば、数式では 1.01^{365} と表すことができます。逆に毎日1%さぼり続けるとすれば、数式では 0.99^{365} と表すことができます。

さて1年後どうなるか、毎日プラス1%の努力をすれば、 $1.01^{365}=37.8$ となります。努力の積み重ね、すなわち複利効果によって、元々の能力が37.8倍になるわけです。逆に毎日1%さぼった場合は $0.99^{365}=0.03$ となり、限りなく0に近づきます。これらの数式は、こつこつと努力を重ねることの大切さを如実に物語っているのではないのでしょうか。

パリオリンピック柔道81キロ級で見事金メダルを獲得し、東京オリンピックに続き連覇を果たした永瀬貴規選手は少年時代を振り返って、「今日腕立て伏せが10回できたら、明日は11回というように。一つひとつ、階段を上っていくことが大事と考えてきた」と述べています。皆さんが地道に努力を重ねて、大きく成長できる実り多い2学期になることを祈念し、2学期始業式の挨拶とします。

$$1.01^{365} \doteq 37.8 \quad \text{VS} \quad 0.99^{365} \doteq 0.03$$